

常総市公園施設長寿命化計画

2023年3月

茨城県 常総市 地域拠点整備課

1. 都市公園整備状況

(2023年3月1日時点 61,424人)

管理対象都市公園の数	管理対象都市公園の面積	一人当たり都市公園面積
40箇所	35.91ha	5.85㎡

2. 計画期間（西暦）〔2023年度～2032年度（10箇年）〕

3. 計画対象公園

①種別箇所数

街区	近隣	地区	総合	運動	広域	風致	動植物	歴史	都緑	その他	緑地	合計
25	3	0	1	1	0	0	0	0	1	3	3	37

②選定理由

レクリエーション需要に対応し、地域活性化の拠点、環境教育の場、環境保全・保護、景観の形成、健康増進、防災機能等さまざまな役割を果たし、これらの機能を安全かつ持続的に継続させ、市民が安全で安心して利用できるよう、街区公園25箇所、近隣公園3箇所、総合公園1箇所、運動公園1箇所、都市緑地1箇所、その他公園3箇所、緑地3箇所の計37箇所を選定した。

4. 計画対象公園施設

①対象公園施設数

園路広場	修景施設	休養施設	遊戯施設	運動施設	教養施設	便益施設
89	10	408	120	0	1	59

管理施設	災害応急対策施設	その他	合計
686	0	1	1,374

②これまでの維持管理状況

- 公園施設全般の維持管理は、次の頻度、内容で実施する。
- ・日常点検は、担当職員（又は市が委託する業者）が、原則3ヶ月に1回、目視等により施設の異常の有無を確認する。
 - ・定期点検は、社団法人日本公園施設業協会が認定する専門技術者（公園施設製品安全管理士・公園施設製品整備技師）又はこれら同等以上の知識を有する者が、遊具施設、建築物を原則1年に1回、目視、触診、打揺診、器具による計測等による劣化状況を確認する。
 - ・各点検により異常が確認された場合は、必要に応じた使用禁止処置の実施をする。更に適切な修繕方法を検討し、早急な対策を実施する。

③選定理由

将来にわたり安全・安心、かつ安定的な公園の運営と維持管理を行い、公園として安全に利用できるよう機能を回復させ、長期間利用可能となる公園施設を目指すため、公園長寿命計画の策定を行った。

なお、対象となる公園では、公園施設長寿命化計画を2023年度から2032年度の10箇年で策定し、各年度の内容は次のとおりである。

計画年度	主な内容
2023年度～ 2024年度	・緊急度「高」とした遊戯施設の更新 ・処分制限期間の過ぎた予防保全施設の更新
2025年度～ 2032年度	・緊急度「中」とした遊戯施設の更新 ・処分制限期間が期間内に到来する予防保全施設の更新

5. 健全度を把握するための点検調査結果の概要

一般施設、建築物、土木構造物、遊戯施設、各種設備について国土交通省の「公園施設長寿命化計画策定指針」に則り、健全度調査を実施した。

健全度調査は、予防保全型管理の候補とし、369施設について実施した。

(施設)

	健全度判定				備考
	A	B	C	D	
a. 一般施設 (228)	-	216	12	-	
b. 建築物 (20)	-	19	1	-	
c. 土木構造物 (1)	-	1	-	-	
d. 遊戯施設 (120)	1	43	65	11	
e. 各種設備 (0)	-	-	-	-	

6. 対策の優先順位の考え方

対策の優先順位は、5.で示した「健全度判定」及び「考慮すべき事項」から設定した「緊急度判定」に基づくこととした。

考慮すべき事項は、公園の利用頻度・劣化状況等により設定した。

(施設)

	緊急度判定		
	高	中	低
a. 一般施設 (228)	60	10	158
b. 建築物 (20)	-	1	19
c. 土木構造物 (1)	-	-	1
d. 遊戯施設 (120)	75	11	34
e. 各種設備 (0)	-	-	-

7. 対策内容と実施時期

○日常的な維持管理に関する基本的方針

公園施設全般の維持管理は、次の頻度、内容で実施する。

- ・日常点検は、市担当職員（又は市が委託する業者）が、原則3ヶ月に1回、目視等により施設の異常の有無を確認する。
- ・定期点検は、社団法人日本公園施設業協会が認定する専門技術者（公園施設製品安全管理士・公園施設製品整備技師）又はこれら同等以上の知識を有する者が、遊具施設、建築物を原則1年に1回、目視、触診、打揺診、器具による計測等による劣化状況を確認する。
- ・各点検により異常が確認された場合は、必要に応じた使用禁止処置の実施をする。更に適切な修繕方法を検討し、早急な対策を実施する。

○公園施設の長寿命化のための基本方針

- ・優先して改築、更新が必要とされる健全度C使用不可に判定された施設は、転落や負傷等の危険性の高いものから早急に補修・更新を行う。その後は、適切な長寿命化対策を実施し、施設の延命化を図る。
- ・健全度が高いとされるA、Bに判定された施設は、日常的な維持管理に関する基本的方針である日常点検と定期点検から、適切で早急な対策を実施し、消耗部品の交換や再塗装で長寿命化を図る。
- ・事後、予防の類型は、ライフサイクルコストの算定結果を踏まえて確定する。
- ・毎年の定期点検を行う遊戯施設や設備以外の公園施設（a. 一般施設、c. 土木構造物、d. 建築物）については、5年に1回以上の健全度調査を実施し、施設の劣化損傷状況を確認する。特殊建築物は、3年に1度法令点検を実施する。
- ・予防保全型とした施設の使用見込み期間は、処分制限期間が20年未満の施設は、処分制限期間の2.4倍、20年以上40年未満の施設は、処分制限期間の1.8倍、処分制限期間が40年以上の施設は、処分制限期間の1.2倍を基本とする。
- ・事後保全型とした施設の使用見込み期間は、処分制限期間が20年未満の施設は、処分制限期間の2倍、20年以上40年未満の施設は、処分制限期間の1.5倍、処分制限期間が40年以上の施設は、処分制限期間の1倍を基本とする。

8. 都市公園別の健全度調査結果、長寿命化に向けた具体的対策、対策内容・時期など
※別添「公園施設長寿命化計画調書」（様式1「総括表」、様式2「都市公園別」、様式3「公園施設種類別現況」）による

9. 対策費用

①概算費用合計（10年間）【②+③】	485,369（千円）
②予防保全型施設の概算費用合計（10年間）	448,516（千円）
③事後保全型施設の概算費用合計（10年間）	36,853（千円）
④単年度あたりの概算費用【①/10】	48,537（千円）

10. 計画全体の長寿命化対策の実施効果

今回長寿命化計画を策定した公園における10年間でのライフサイクルコスト縮減額は1,224千円である。

11. 計画の見直し予定

① 計画の見直し予定年度（西暦）：〔2027年度〕

② 見直し時期、見直しの考え方など

- ・健全度調査を5年毎に行い、その際に長寿命化計画の見直しを行う。
- ・公園の利用状況を考慮しつつ、今後は、廃止や集約化に向けた検討を実施する予定。